

春のはじまり

今年の節分が2月2日で、驚いた人もいるかと思います。（近所の和菓子屋さんでは日を間違えて作りすぎてしまったとか）

地球は1年かけて1周しますが、正確には365日よりおよそ6時間長くかかっている、うるう年でも修正しきれないズレがあるため、今年の立春と節分が、それぞれ例年より1日早まったそうです。2月2日が節分になるのは2021年以来でこの時は実に124年ぶりでした。

2月3日が立春。立春とは二十四節気の最初の節気で、旧暦における1年の始まり。春の兆しを感じられるようになってくる頃です。

3月は年度の終わり。卒業や進級で気忙しく4月からのことに気をとられがちですが、季節の移り変わりを感じるためにも二十四節気のことを知ってほしいと思います。

図書室にはたくさんの種類の本がありますので足を運んでみてください。

今後の二十四節気をあげますので、季節の移ろいを感じてみてください。

○雨水(うすい) 2月19日～3月5日頃 乾いた大地が潤うことを意味する節気。雪が雨に変わったり、霜が解けたりして土がやわらかくなる時期。

○啓蟄 3月6日～3月20日頃 春の暖かな陽気に誘われて、地中の虫も外へ出てくるといいう意味の節気。

○春分 3月21日～4月3日頃 春分とは「春の半分」のこと。春の半ばに達したこの時期は、まさに春の盛り。春分の日（3月21日頃）には、昼夜の時間がほぼ同じ長さになります。

参考図書 『季節の兆しカレンダー』 石田郷子 ダイアモンド社
 『漢方の暮らし 365日』 川手鮎子 自由国民社
 『薬膳の食卓 365日』 川手鮎子 自由国民社



♥ 先月、第172回(2024年下半期)の芥川賞・直木賞の受賞作が ♥
 ♥ 発表されました。新たな才能にあふれた作品を紹介します！ ♥



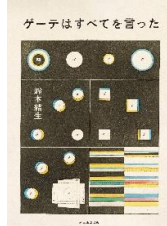
芥川賞



DTOPIA/安堂ホセ/河出書房新社
 二舞台は南太平洋の楽園、ボラ・ボラ島。白人女性“ミスユニバース”を巡って10人の男が競う。Mr. L. A.、Mr. ロンドン、そしてMr. 東京—やがてショーの視聴者たちは「自分だけのDTOPIA(デートピア)」を編集しはじめ、楽園の時間は膨張する。



芥川賞



ゲートはすべてを言った/鈴木結生/朝日新聞出版
 高名なゲート学者・博把統一は一家団樂のディナーで、彼の知らないゲートの名言と出会う。ティー・バッグのタグに書かれたその言葉を求めて、膨大な原典を読み漁り、長年の研究生活の記憶を辿るが—。ひとつの言葉を巡る統一の旅は、創作とは何かという深遠な問いを投げかけながら、読者を思いがけない明るみへ誘う。若き才能が描くアカデミック冒険譚！

直木賞



藍を継ぐ海/伊与原新/新潮社
 数百年先に帰ってくるかもしれない。懐かしい、この浜辺に。なんとかウミガメの卵を孵化させ、自力で育てようとする徳島の中学生の女の子。老いた父親のために隕石を拾った場所を偽る北海道の身重の女性。山口の島で、萩焼に絶妙な色味を出すという伝説の土を探す元カメラマンの男。人間の生をはるかに超える時の流れを見据えた、科学だけが気づかせてくれる大切な未来。きらめく全五篇。



1月末クラス別利用状況



クラス 学年	1組	2組	3組	4組	職員	計	総計
1年	0	0	0	0		0	14
2年	0	2	0	0		2	
3年	0	0	0	0		0	
職員					12	12	